

はじめに

情報社会学会会員の皆様

情報社会学会誌 Vol14, No1 をお届けいたします。  
本号では、6本の原著論文、2本の研究ノートを掲載いたします。いずれも、萌芽性、新規性、さらなる研究への期待があり、情報社会学への貢献は大きいと考えます。

原著論文「直近の取得 Web 情報に基づくユーザの現在の興味・指向の予測に関する研究」は、ユーザが直前に web で取得したコンテンツの特徴分析に基づいて、現在のユーザの興味に最も近い情報を予測する手法を提案するユニークな着眼点を持つ論文です。

原著論文「複雑情報環境下における組織間ネットワーク・ダイナミクスの考察」は、組織間の紐帯に関して、複雑性が高い情報環境下の組織間ネットワーク構造が、どのような動的態様にて効用を発揮するのかを事例検証から明らかにするユニークな着眼点を持つ論文です。未だ明確に述べられていない情報環境の高複雑性に適応する動的な紐帯構造と、その動態をドライブする動因について、2つの仮説を創設し、事例にて論証したことは評価できると考えます。

原著論文「スマートフォン利用の生活時間への影響分析-神奈川県および全国の高校生のアンケート調査から-」は、高校生を対象としてスマートフォンの利用が生活時間に与える影響を分析する論文です。社会に浸透し、娯乐的要素だけでなく利用者にとって有用なアプリケーションが登場すると、社会的評価が変わり、スマートフォンに関しては、学ぶ人にとって有用な動画サイトや学習サイトが知られるようになり、評価が変わる転換時期を迎えていると推測できます。このような状況をデータで示しており、有用な結果を導いていると考えます。

原著論文「SNS の Zipf 則と安定分布」は、単語の出現順位（ランク）と頻度に普遍的に現れる経験則である Zipf 則に対して、その出現パターンの理論的な根拠を、SNS の名詞の出現頻度の解析から解明しようとするユニークな着眼点を持つ論文であると思います。

原著論文「負の間接ネットワーク効果を伴うプラットフォーム間競争構造の分析」は、市場においていわゆる独り勝ちができない、つまり双方のネットワーク効果最大化を実現できないような水平的に差別化されたプラットフォーム間の競争に、負のネットワーク効果がどのような影響を与えるのかをモデル化し分析し、現在のスマートフォン市場などに起こっている水平的差別化の原因を追求するもので、学術的価値があると考えます。

原著論文「クラウドファンディングにおけるコミュニティ形成機能の優位性とファンドレイザーの発揮するブリッジング・リーダーシップの有効性に関する研究-佐賀県の先進的取り組み事例をもとに-」は、クラウドファンディングのブリッジ型コミュニティ形成に際し、事例としてファンドレイザーを取り上げた点において、興味深い実践的視点を提供していると思います。

研究ノート「製菓産業における IT 投資の総要素生産性と労働生産性に与える影響の研究」は、IT 投資が企業の生産性に与える影響については、様々な議論がある中で、定量的に分析する研究の意義は高いと思います。今後のさらなる研究を期待します。

研究ノート「日本企業における BI ツールの不活用原因の分析-日本企業の意味決定におけるデータ活用不足の要因研究-」は、ビジネスインテリジェンスの導入事例収集や導入検討プロセスの調

査から、経営判断に用いられる数値は、多くの帳票類で賄われており、ビジネスインテリジェンスで賄われている事例は少ない中で、その活用の阻害要因や問題点を探り、日本型経営や組織構造の問題を明らかにするユニークな研究です。今後のさらなる研究を期待します。

多くの研究が投稿され、多岐にわたる研究分野の成果が報告されました。今後のさらなる研究の発展に期待します。会員皆様の積極的な研究活動に期待すると同時に、情報社会学に関する多彩なご投稿をお待ちしています。

2019年8月31日

情報社会学会  
会長・編集委員長  
大橋 正和